

皮麦・稞麦(非醸造用二条大麦)
調 査 基 準

第 1 版

1986. 9

農業研究センター

は し が き

作物の試験研究を進めるうえで、調査基準が不可欠なものであることはいうまでもない。またそれが、客観的、普遍的な内容をもつものでなければならぬことも言をまたない。

このような観点からみると麦に関する最も普遍的な調査基準といえるものは、昭和10年に農事試験場で作成された小麦新品種育成試験に関する調査基準ということになる。もちろん、その後も国あるいは公立の試験研究機関等でそれぞれ調査基準というべきものを作成、使用しているが、多くはこれを原型としたものであり、また必ずしも全国を対象とするような普遍的なものにはなっていない。

一方、近年の麦作及びそれに対応する試験研究は当時とは大きく変化し、従来の調査基準では対応し難い場面も多く出てきている。このような状況の中で麦類の研究者が相寄り、新たな視点に立った調査基準の策定をはかってきたことはたいへん意義のあることといえよう。

今回、小麦に引続き、大麦について取まとめが終ったので、ここに印刷、配布することとした。御利用頂ければ幸いです。

終りに、これら調査基準の作成にあたった関係者に厚く謝意を表す。

1986年9月

農業研究センター所長

榎 潤 欽 也

調査基準の使用にあたって

1. 収録した項目はかなり多く、中には同義的なものも含まれているが、これは、一般に試験研究機関で行なわれている調査のほか、作況試験および種苗特性分類基準に用いられている項目も含めたためである。
したがって、目的によって適宜選択して使用していただきたい。
2. 定義については従来使用されてきたものをできるだけ尊重したが、明らかに改定を要するもの、また、記載のないものについては、修正あるいは新たに書きおこした。
3. 備考については、主として実際の調査する際の標準的な方法について記載した。しかし、項目によっては標準とすべき方法が確立されていないものもあり空欄にしてある。記載したものは現在、最も一般的に使用され、妥当と思われるものを主としたが、項目によっては、現時点での情報をもとに参考となり得ると考えられるものも加えた。したがって、記載されている方法は必ずしも絶対的なものではなく、一つの目安であり、使用者はこれをもとに試験の目的、精度等によって適宜判断の上利用されることが望ましい。
4. 大麦種苗特性分類と審査基準における標準品種には、変更した方がよいと思われるものもあるが、同基準との整合性もあり、今回は同基準のあるままと記載した。ただし、その後の知見により新しく加えた方がよいと思われたものについては（ ）を付して記載した。

目 次

皮麦・稗麦（非醸造用二条大麦）調査基準項目一覧表

凡 例

A. 【発芽および出芽調査】	肌色	1 ~ 6	ページ
B. 【生育期調査】	黄色	7 ~ 27	
C. 【収穫期調査】	緑色	28 ~ 35	
D. 【収量関係調査】	青色	36 ~ 48	
E. 【品質関係調査】	紫色	49 ~ 52	
F. 【特性調査】	桃色	53 ~ 69	

付 1 ~ 付 6

さ く い ん

皮・稗麦（非醸造用二条大麦）調査基準項目一覧表

調査項目	番号	調査項目	番号	調査項目	番号	調査項目	番号	調査項目	番号
A. 【発芽および出芽期調査】		分けつ最盛期	6	起生期	32	凍上害	58	総根長	20
発芽始	1	最高分けつ期	7	茎立期	33	凍霜害	59	根長	21
発芽期	2	有効分けつ決定期	8	* 茎立性	34	晩霜害	60	根数	22
発芽揃	3	有効分けつ期間	9	減数分裂期	35	風害	61	根色	23
発芽日数	4	分けつ終期	10	穂孕期	36	酸性の害	62		
発芽良否	5	無効分けつ期間	11	出穂始	37			D. 【収量関係調査】	
発芽整否	6	生葉数	12	** 出穂期	38	C. 【収穫期調査】		収量性	1
発芽勢	7	出葉期	13	出穂まで日数	39	稈の剛柔	1	1 穂重	2
発芽率	8	出葉転換期	14	出穂促進日数	40	** 稈の細太	2	1 穂粒重	3
出芽始	9	葉の黄化期	15	出穂遅延日数	41	** 株の開閉	3	穂重歩合	4
出芽期	10	葉の寿命	16	穂揃期	42	穂発芽性	4	1 株穂重	5
出芽揃	11	枯葉数	17	穂揃日数	43	** 穂長	5	平均1 穂重	6
出芽日数	12	** 葉色	18	開花期	44	穂数	6	1 株粒重	7
出芽数	13	葉齢	19	乳熟期	45	m ² 当り穂数	7	地上部生体重	8
m ² 当り出芽数	14	葉齢指数	20	黄熟期	46	有効穂数	8	乾物重	9
出芽率	15	葉身長	21	** 成熟期	47	m ² 当り有効穂数	9	地上部風乾重	10
出芽良否	16	葉身巾	22	結実日数	48	有効穂数歩合	10	乾物重歩合	11
出芽整否	17	葉鞘長	23	生育日数	49	遅れ穂数	11	風乾重歩合	12
出芽後の生育の良否	18	葉面積	24	被害発生状況	50	m ² 当り遅れ穂数	12	稈基重	13
		葉面積指数	25	倒伏の程度	51	被害穂数	13	わら重	14
B. 【生育期調査】		生育良否	26	虫害	52	m ² 当り被害穂数	14	m ² 当りわら重	15
草丈	1	越冬株歩合	27	病害	53	** 穂の抽出度	15	根重	16
茎数	2	幼穂形成始期	28	寒害	54	** 稈長	16	有効茎歩合	17
m ² 当り茎数	3	幼穂形成期	29	旱害	55	平均稈長	17	1 穂小花着生軸節数	18
分けつ数	4	幼穂長	30	湿害	56	節間長	18	小花数	19
分けつ開始期	5	節間伸長開始期	31	雪害	57	地中茎長	19	1 穂当り小花数	20

調査項目	番号	調査項目	番号	調査項目	番号	調査項目	番号
m ² 当り小花数	21	原麦粗蛋白質含量	8	* 芒長 (芒の長短)	20	**うどんこ病抵抗性	46
1穂粒数	22	* 原麦白度	9	* 芒型	21	** 小さび病抵抗性	47
稔実粒数	23	* 精麦歩留	10	** 穎色 (稈色)	22	雲形病抵抗性	48
稔実歩合	24	* 精麦白度	11	ワックスの多少	23	株腐病抵抗性	49
整粒歩合	25	欠損粒歩合	12	** 条性	24	斑葉病抵抗性	50
全重	26			* 穂型	25	虫害抵抗性	51
a 当り全重	27	F. 【特性調査】		小花 (芒) の開張度	26		
子実重	28	** 播性の程度	1	* 脱芒性	27		
屑麦重	29	春播・秋播の別	2	* 脱稈性	28		
a 当り子実重	30	* 叢性	3	** 皮稈性	29		
a 当り屑麦重	31	** 並渦性	4	** 糯, 稈の別	30		
** 1ℓ重	32	葉の柔剛	5	** 粒着の粗密	31		
** 千粒重	33	止葉の形	6	** 粒の形	32		
整粒千粒重	34	止葉の大小	7	** 粒の大小	33		
屑麦千粒重	35	葉耳の有無	8	* 粒の色	34		
千粒重増加状況	36	葉耳の色	9	* 粒質	35		
収穫指数	37	葉舌の有無	10	** 脱粒性	36		
		葉鞘のワックスの多少	11	粒の硬軟	37		
		葉鞘の毛の有無・多少	12	** 耐倒伏性	38		
E. 【品質関係調査】		葉身の下垂度	13	* 耐寒性	39		
粒の黒目の有無・多少	1	穂の下垂度	14	* 耐雪性	40		
* 穀皮の厚さ	2	葯の色	15	耐湿性	41		
剥皮の程度	3	稈のワックスの多少	16	* 耐凍上性	42		
穀皮歩合	4	** 芒の有無・多少	17	* 縞萎縮病抵抗性	43		
粒の品質	5	芒の色	18	麦類萎縮病抵抗性	44		
** 原麦粒のみかけの品質	6	芒の粗滑	19	* 赤かび病抵抗性	45		
原麦全窒素含量	7						

凡

例

調査形質番号	形質	1 定義		(大麦種苗特性分類と審査基準における標準品種)
		2 備考		寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地
必須度区分		3 調査方法	階	1
(項目番号)		4 単位	級	2
		5a 調査の場合の最小桁	区	3
		5b 平均した場合の最小桁	分	4
				5
				6
				7
				8
				9

必須度区分欄の記号 : ** 大麦種苗特性分類と審査基準における必須特性項目
 * " 条件付き必須特性項目

(項目番号) : " 項目番号

階級区分 : " 階級区分

寒地 : 北海道地方
 寒冷地北部 : 東北地方
 寒冷地南部 : 北陸地方
 温暖地東部 : 関東・東山・東海地方
 温暖地西部 : 近畿・中国・四国地方
 暖地 : 九州地方

A. 【発芽および出芽調査】

A. 【発芽および出芽調査】

(1)

<p>1. 発芽始 Beginning of germination</p>	<p>1 始めて発芽を認めた日 発芽または発根を認めたときを発芽とする 2 原則としてシャーレによる試験, 9cmシャーレに東洋濾紙No2を2枚しき, 100粒を置床し, 純水 4~10mlを注入, 20℃恒温条件におく 3 観察 4 月日 5a 1 5b 1</p>
<p>2. 発芽期 Germination stage</p>	<p>1 播種粒数の40~50%が発芽した日 2 3 観察 4 月日 5a 1 5b 1</p>
<p>3. 発芽揃 Full germination stage</p>	<p>1 播種粒数の80~90%が発芽した日 2 3 観察 4 月日 5a 1 5b 1</p>

A. 【発芽および出芽調査】

(2)

<p>4. 発芽日数 Number of days to germination</p>	<p>1 播種期から発芽期までの日数 2 播種期の翌日から起算 3 算出 4 日 5a 1 5b 1</p>
<p>5. 発芽良否 Degree of germination</p>	<p>1 発芽の良し悪し 2 発芽歩合 80 %以上を良, 60%以下を不良, その中間を中とする 良:1 (80%以上), 中:3, 不良:5 (60%以下) 3 観察 4 5a 5b</p>
<p>6. 発芽整否 Uniformity of germination</p>	<p>1 発芽個体の分布の状況 2 発芽個体の分布状況の均一なものを整, 不均一なものを不整, その中間を中とする 整, 中, 不整 3 観察 4 5a 5b</p>

A. 【発芽および出芽調査】

(3)

7. 発芽勢	1 播種粒数に対する発芽粒 (20℃で72時間以内に発芽または発根した粒) の割合
Germination rate	2 100 粒 3 反復以上 原則としてシャーレによる試験
	3 測定
	4 %
	5a 1
	5b 0.1
8. 発芽率	1 播種粒数に対する発芽粒 (20℃で7日以内に発芽発根した粒) の割合
Germination percentage	2 100 粒 3 反復以上 原則としてシャーレによる試験
	3 測定
	4 %
	5a 1
	5b 0.1
9. 出芽始	1 始めて出芽を認めた日
Biginning of seedling emergence	2 地表から幼鞘または第1葉が出たときを出芽とする 原則として圃場条件で調査
	3 観察
	4 月日
	5a 1
	5b 1

A. 【発芽および出芽調査】

(4)

10. 出芽期	1	発芽可能粒数（播種粒数×発芽率）の40～50%が出芽した日
	2	
Seedling	3	観察
emergence	4	月日
stage	5a	1
	5b	1

11. 出芽揃	1	発芽可能粒数の80～90%が出芽した日
	2	
Full seedling	3	観察
emergence	4	月日
stage	5a	1
	5b	1

12. 出芽日数	1	播種期から出芽期までの日数
	2	播種期の翌日から起算
Number of days	3	算出
to seedling	4	日
emergence	5a	1
	5b	1

A. 【発芽および出芽調査】

(5)

13. 出芽数 Seedling number	1 出芽した個体の数 2 調査は4か所以上, 合計面積が1 m ² 以上になるようにする 3 測定 4 本 5a 1 5b 1
14. m ² 当り出芽数 Seedling number per m ²	1 m ² 当りの出芽数 2 3 算出 4 本 5a 1 5b 1
15. 出芽率 Seedling emergence percentage	1 播種粒数に対する出芽数の割合 2 3 算出 4 % 5a 1 5b 1

A. 【発芽および出芽調査】

(6)

<p>16. 出芽良否 Degree of seedling emergence</p>	<p>1 出芽の良し悪し 2 出芽率 80 %以上を良, 60%以下を不良, その中間を中とする 良:1 (80%以上), 中:3, 不良:5 (60%以下) 3 観察 4 5a 5b</p>
<p>17. 出芽整否 Uniformity of seedling emergence</p>	<p>1 出芽個体の分布の状況 2 出芽個体の分布状況の均一なものを整, 不均一なものを不整, その中間を中とする 整, 中, 不整 3 観察 4 5a 5b</p>
<p>18. 出芽後の生育の良否 Degree of initial growth after emergence</p>	<p>1 出芽後約1か月間(生育初期の期間)の生育の良否 2 良, 並, 不良で表わし, 平年の生育程度を並とする 必要であれば徒長ぎみなど生育状況についても記録する 3 観察 4 5a 5b</p>

B. 【生育期調査】

B. 【生育期調査】

(7)

<p>1. 草丈</p> <p>Plant length</p>	<p>1 植物体の長さ</p> <p>2 ①立毛の場合は地際から葉先までの長さ，抜取りの場合は，根際から葉先までの長さ 成熟期の草丈は稈長+穂長とする</p> <p>②生育中庸な20株について最高茎を測定，例えば条播は4か所50cm間につき10cmごとに最高茎を測定，散播は4か所50cm角につき各5株の最高茎を測定</p> <p>3 測定</p> <p>4 cm</p> <p>5a 1</p> <p>5b 0.1</p>
<p>2. 茎数</p> <p>Stem number</p>	<p>1 分げつ節の葉鞘よりげっ子の先端の現われたものを分げつとし（葉鞘の側方よりげっ子の現われたものを含む）これに主稈の数を加えたもの</p> <p>2 調査は4か所以上，合計面積が1㎡以上になるようにする 例えば，条播では50cm間4か所，散播では50cm角5か所測定</p> <p>3 測定</p> <p>4 本</p> <p>5a 1</p> <p>5b 1</p>
<p>3. ㎡当り茎数</p> <p>Stem number per ㎡</p>	<p>1 ㎡当りの茎数</p> <p>2</p> <p>3 算出</p> <p>4 本</p> <p>5a 1</p> <p>5b 1</p>

B. 【生育期調査】

(8)

4. 分けつ数 Tiller number	1	基数から主稈を差し引いた数
	2	基数調査に準ずる個体で算出する
	3	算出
	4	本
	5a	1
	5b	0.1
5. 分けつ開始期 Initial tillering stage	1	始めて分けつを見た日
	2	大体本葉3～4葉期の頃
	3	観察
	4	月日
	5a	1
	5b	1
6. 分けつ最盛期 Active tillering stage	1	分けつ数の増加速度が最も大きい時期
	2	生育調査をしている個体の分けつ数がきまった後に算出する
	3	測定・算出
	4	月日
	5a	1
	5b	1

B. 【生育期調査】

(9)

7. 最高分げつ期	1	基数が最大となった日
	2	生育調査をしている個体の分げつ数がきまった後に算出する
Maximum tiller number stage	3	測定・算出
	4	月日
	5a	1
	5b	1

8. 有効分げつ決定期	1	基数がその年の穂数と同一になった日
	2	穂数がきまった後に算出する
End stage of effective tillering	3	算出
	4	月日
	5a	1
	5b	1

9. 有効分げつ期間	1	分げつ開始期から有効分げつ決定期までの期間
	2	穂数がきまった後に算出する
Effective tillering period	3	算出
	4	日
	5a	1
	5b	1

B. 【生育期調査】

(10)

10. 分けつ終期	1 分けつの発生をみなくなった日 2 凍霜害等による異常に遅い時期の分けつ（遅れ穂）は含まない
End stage of tillering	3 観察 4 月日
	5a 1
	5b 1
11. 無効分けつ期間	1 有効分けつ決定期から分けつ終期までの期間
	2
Non-effective tillering period	3 算出 4 日
	5a 1
	5b 1
12. 生葉数	1 同化能力のある葉の数 2 枯葉部の面積が葉身面積の $\frac{1}{2}$ 以下の葉身数、あるいは葉身の全長を5等分して小数で表示する 未展開葉（葉身のロールしたもの）は含まない。葉色が黄化し同化作用能力を失った部分は枯葉部とみなす 調査個体数ならびに標本抽出は草丈調査に準ずる
Active leaf number	3 測定
	4 枚
	5a 1
	5b 0.1

<p>13. 出葉期</p> <p>Time of individual leaf emergence</p>	<p>1 最上位の葉鞘から次位葉身の先端がはじめて抽出した日</p> <p>2 普通は主稈葉について行う</p> <p>葉位の記号は最下位の葉身を有する本葉を第1葉とする</p> <p>鞘葉 (C) は別に記す</p> <p>従って本法で言う第1葉は植物学的には第2葉に相当する</p> <p>分けつの芽の葉位は下から前葉 (P), 第1葉, 第2葉と記す</p> <p>3 観察</p> <p>4 月日</p> <p>5a 1 5b 1</p>
<p>14. 出葉転換期</p> <p>Stage of change of leaf emergence rate</p>	<p>1 出葉間隔が明らかに長くなった最初の日</p> <p>2 明瞭に現れない場合もある</p> <p>主稈葉について調査する</p> <p>3 測定・算出</p> <p>4 月日</p> <p>5a 1</p> <p>5b 1</p>
<p>15. 葉の黄化期</p> <p>Time of individual leaf yellowing</p>	<p>1 葉身長あるいは葉面積の$\frac{1}{2}$以上が黄化して同化作用を行わなくなったと判定した日</p> <p>2 追跡調査のときは各葉位毎に調査する</p> <p>3 観察</p> <p>4 月日</p> <p>5a 1</p> <p>5b 1</p>

B. 【生育期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (12)

16. 葉の寿命 Life span of individual leaf	1	その葉の出葉期から黄化期に達するまでの期間							
	2								
	3	算出							
	4	日							
	5a	1							
	5b	1							
17. 枯葉数 Senescent leaves number	1	枯葉の数							
	2	枯葉部が葉身長あるいは葉面積の1/2以上であるものを枯葉とする							
	3	測定							
	4	枚							
	5a	1							
	5b	0.1							
18. 葉色 ** (1-3-2) Leaf color	1	葉の色	1						
	2	観察または色差計・色板等による測定、品種特性の調査は叢性観察時の葉色、その他の場合は調査時期を明記する	2	極淡	—	—	—	—	—
	3		3	淡	—	陸羽裸1号	—	ベニハダカ	—
	4		4	やゝ淡	—	—	ミノリ	ドリル	— (成城17号)
	5		5	中	—	—	—	カシマ	ユウナギ カシマ
	3	観察、測定	6	やゝ濃	—	ミュキ	サナダ	ムサシノ	— カワサイゴク
	4		7	濃	—	べんけい	リクゼン	—	ナンブウ
	5a		8	極濃	—	—	—	—	—
	5b		9						

19. 葉齢 Plant age in leaf number	<p>1 生物体の生育ステージを主稈の出葉数で表したもの</p> <p>2 主稈（あるいは分げつ稈）の最上位の葉身が次位葉（n-1）の葉鞘から抽出した長さmを測り、次に前者が全長に達した後の葉身の長さMを測り次式により計算する 葉齢 = $(n-1) + m/M$ 簡便法としては ① 未展開葉を0.5 展開葉を1.0 とみなして目測する ② 最上位の全長に達した葉身を9等分して次位葉身の伸長度を目測する</p> <p>3 測定・観察</p> <p>4</p> <p>5a 0.1 5b 0.1</p>
20. 葉齢指数 Leaf number index	<p>1 作物体の生育ステージを示す一つの尺度</p> <p>2 葉令を主稈総葉数で除し百分率で表したもの</p> <p>3 測定・算出</p> <p>4</p> <p>5a 1</p> <p>5b 1</p>
21. 葉身長 Leaf blade length	<p>1 葉身の長さ</p> <p>2 葉身の長さが最長となったときの先端から葉耳までの長さ、あるいは長、中、短で示す 葉先が枯れない間に測定するように注意する</p> <p>3 観察・測定</p> <p>4 cm</p> <p>5a 0.1</p> <p>5b 0.1</p>

B. 【生育期調査】

(14)

22. 葉身巾 Leaf blade width	1	葉身の巾
	2	最大葉身巾で示す
	3	測定
	4	cm
	5a	0.1
	5b	0.1
23. 葉鞘長 Leaf sheath length	1	葉耳からその葉の着生節までの長さ
	2	
	3	測定
	4	cm
	5a	0.1
	5b	0.1
24. 葉面積 Leaf area	1	葉身の面積
	2	0.25㎡以上 4か所の葉重 (TW) と葉面積の合計が1000cm以上となる葉重 (w) の比から求める TW×wの葉面積/w
		① 葉身の大きさを厚さ一定の紙片 (感光紙など) に写し重量法で計算する
		② 葉面積測定器で測定する
	3	測定
	4	cm ²
	5a	0.1
	5b	0.1

25. 葉面積指数 Leaf area index (L A I)	1 単位面積に対する葉面積の比 2 3 算出 4 5a 0.01 5b 0.01
26. 生育良否 Growth vigor	1 生育の良し悪し 2 生育ステージを記録し、良、並、不良で表し、平年の生育程度を並とする 必要であれば徒長ぎみ、あるいは分けつ数の多少などについても記録する 3 観察 4 5a 5b
27. 越冬株歩合 Winter survival percentage	1 越冬前の株数に対する越冬後の株数の割合 2 調査は4か所以上、合計面積が1㎡以上になるようにする 例えば、条播では50cm間4か所、散播では50cm角5か所 3 測定、算出 4 % 5a 1 5b 1

28. 幼穂形成始期 Beginning of spike formation	1	初めて小穂始原体が分化した日
	2	稲村ら（1955）の基準のVI期に相当する時期
		下部節間が伸びはじめるものがある
	3	測定
	4	月日
	5a	1
5b	1	
29. 幼穂形成期 Spike formation stage	1	40～50%の茎に小穂始原体が分化した日
	2	
	3	測定
	4	月日
	5a	1
	5b	1
30. 幼穂長 Young spike length	1	幼穂の長さ
	2	10個体の各個体より長い茎3本を抜き取って幼穂の長さを調査する 幼穂形成始期より出穂期まで測定する
	3	測定
	4	cm
	5a	0.1
	5b	0.1

31. 節間伸長開始期 Initial stage of internode elongation	1 節間が伸長し始めた日 2 10個体について各個体で長い茎3本ずつを切取って調査し、その80%以上の茎の節間が5 mmに達した日 1個体で3茎ない場合は合計30本以上になるように個体数を増す 3 測定 4 月日 5a 1 5b 1
32. 起生期 Regrowing stage	1 越冬後、ほぼ停止状態にあった茎葉が再び生長し始める時期 2 3 観察 4 月日 5a 1 5b 1
33. 茎立期 Jointing stage	1 茎が急速に伸び始める時期 2 主稈長が2 cmになった時期 3 観察 4 月日 5a 1 5b 1

B. 【生育期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (18)

34. 茎立性 *	1	茎が起立し始める時期の早晩	1								
	(II-2)		2	極早	—	—	—	—	ハシリ	(イシュクシラズ)	
		3	観察	3	早	—	—	サツキ	ナンブウ	カワサイゴク	
		4		4	やゝ早	—	—	アサマ	カシマ	ベニ	ダイセン
	Earliness of internode elongation	5a		5	中	—	—	—	ムサシノ	サヌキ	(ふじ二条II)
		5b		6	やゝ晩	—	—	ミノリ	関取埼1号	キカイ	(ニューゴールドン)
				7	晩	—	—	ミユキ	万力	赤神力	—
				8	極晩	—	—	—	—	—	—
				9							
35. 減数分裂期	1	花粉母細胞が減数分裂をする時期									
	Meiosis stage	2	大体出穂前 5~10日頃である								
		3	観察								
		4	月日								
		5a	1								
	5b	1									
36. 穂孕期	1	止葉展開期から出穂前日までの期間									
	Booting stage	2	播種の翌日から起算								
		3	観察								
		4	日								
		5a	1								
	5b	1									

B. 【生育期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (19)

37. 出穂始 Date of first heading	1	始めて穂先が葉鞘から現れた日							
	2	特に異品種でないことを確かめる							
	3	観察							
	4	月日							
	5a	1							
	5a	1							
38. 出穂期 ** (II-3-1) Heading stage	1	全茎の40~50%が出穂した日	1						
	2		2	極早	—	ハヤチネ	—	—	ハシリ (イシュクシラズ)
	3	観察	3	早	—	—	ハヤチネ	カシマ	ナンプウ カワサイゴク
	4	月日	4	やゝ早	—	リクゼン	アサマ	—	ヒノデ (カワミズキ)
	5a	1	5	中	—	ミユキ	—	関取埼1号	サヌキ ダイセン
	5b	1	6	やゝ晩	—	—	ミノリ	—	キカイ (ふじ二条II)
			7	晩	—	岩手大麦1号	—	ハルナ	赤神力 (ニューゴールデン)
			8	極晩	—	—	—	—	—
			9						
39. 出穂まで日数 Number of days to heading	1	播種から出穂までの日数							
	2	播種の翌日から起算							
	3	算出							
	4	日							
	5a	1							
	5b	1							

40. 出穂促進日数	1	その地方の標準栽培における過去の平均的な出穂期に対して促進された日数
	2	
Advanced number	3	観察・算出
of days in heading	4	日
	5a	1
	5b	1

41. 出穂遅延日数	1	その地方の標準栽培における過去の平均的な出穂期に対して遅延した日数
	2	
Delayed number of	3	観察・算出
days in heading	4	日
	5a	1
	5b	1

42. 穂揃期	1	全茎の80~90%が出穂した日
	2	
Full heading	3	観察
stage	4	月日
	5a	1
	5b	1

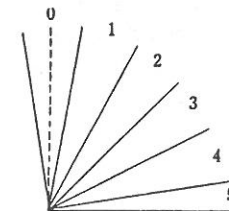
43. 穂揃日数 Number of days from first to full heading	1 出穂始から穂揃期までの日数 2 出穂始の翌日から起算 3 算出 4 日 5a 1 5b 1
44. 開花期 Flowering date	1 1穂については数花開花を認めた日 集団では全穂数の40~50%が開花期に達した日 2 3 観察 4 月日 5a 1 5b 1
45. 乳熟期 Milky stage	1 粒は緑色を保ち、圧すると固さを感じはじめ乳状物をだす時期 2 3 観察 4 月日 5a 1 5b 1

49. 生育日数
- 1 播種から成熟期までの日数
 - 2 播種の翌日から起算
- Growth period
- 3 算出
 - 4 日
 - 5a 1
 - 5b 1

50. 被害発生状況
- 1 被害の発生状況
 - 2 被害名とその発生時期・損傷程度の調査を行う
- Damage situation
- 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する
- 3 測定・観察
 - 4
 - 5a
 - 5b

51. 倒伏の程度
- 1 倒伏の程度
 - 2 倒伏の角度, 倒伏面積の割合により倒伏の程度を示す
- Degree of lodging
- 調査月日及び倒伏した月日を記載する
- 無(0), 微(1), 少(2), 中(3), 多(4), 甚(5)に区分し, 2は半分の面積で60°, または全面積で45°の倒伏, 4は全面積で60°の倒伏, 1・3は中間, 5は冠水等による場合で通常はみられない
- 3 観察
 - 4
 - 5a
 - 5b

倒伏の程度
(無倒伏)



(完全倒伏)

52. 虫害 Insect damage	1 虫による被害 2 害虫名とその被害様相, 発生時期, 程度の調査を行う なお, 発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期は葉令あるいは茎立期, 穂孕期, 出穂期など 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する 3 観察 4 5a 5b
53. 病害 Disease damage	1 病原体による被害 2 病害の種類別に記載する 病害名とその被害様相, 発生時期, 程度の調査を行う なお, 発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期は葉令あるいは茎立期, 穂孕期, 出穂期など 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する 3 観察 4 5a 5b
54. 寒害 Cold damage	1 寒さによる被害 2 被害様相, 発生時期, 程度の調査を行う なお, 発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期は葉令あるいは茎立期, 穂孕期, 出穂期など 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する 3 観察 4 5a 5b

55. 旱害 Drought damage	<p>1 早ばつによる被害</p> <p>2 被害様相, 発生時期, 程度の調査を行う なお, 発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期は葉令あるいは茎立期, 穂孕期, 出穂期など 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>
56. 湿害 Wet damage	<p>1 土壌の湿潤による被害</p> <p>2 被害様相, 発生時期, 発生原因, 程度の調査を行う なお, 発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 生育時期は葉令あるいは茎立期, 穂孕期, 出穂期など 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>
57. 雪害 Snow damage	<p>1 雪による被害</p> <p>2 被害様相, 発生時期, 根雪期間, 発生原因, 程度の調査を行う 微生物によるものとそうでないものと, または2者合わせたものとに区別できるようにしておく 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>

58. 凍上害 Frost heaving injury	<p>1 霜柱氷層による被害</p> <p>2 麦は地上に押し上げられ、断根・乾燥により、被害の著しいときは枯死する 被害様相、発生時期、発生原因、程度の調査を行う なお、発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 甚、多、中、少、微、無に区分する</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>
59. 凍霜害 Frost damage	<p>1 凍結や霜による被害</p> <p>2 一般に幼穂が凍死する（幼穂凍死型凍霜害）場合が多い 被害様相、発生時期、発生原因、程度の調査を行う なお、発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 甚、多、中、少、微、無に区分する</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>
60. 晩霜害 Late spring frost damage	<p>1 節間伸長期より後の霜害</p> <p>2 出穂期前後の晩霜による被害、不稔や稔実不良が発生（不稔型凍霜害）すると被害は大きい 被害様相、発生時期、発生原因、程度の調査を行う なお、発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 甚、多、中、少、微、無に区分する</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>

61. 風害 Wind damage	1 風による害 2 被害様相, 発生時期, 発生原因, 程度の調査を行う なお, 発生時期に暦日と麦の生育時期の両者を記入する 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する 3 観察 4 5a 5b
62. 酸性の害 Acid damage	1 土壌のpHが低いことによる害 2 甚, 多, 中, 少, 微, 無に区分する 3 観察 4 5a 5b

C. 【收 穫 期 調 査】

C. 【収穫期調査】

番号 階級区分 寒地

寒冷地北部

寒冷地南部

温暖地東部

温暖地西部

暖地

(28)

		番号	階級区分	寒地	寒冷地北部	寒冷地南部	温暖地東部	温暖地西部	暖地
1. 稈の剛柔 (I-2-3) Culm stiffness	1 成熟期の稈の固さ	1							
	2	2	極剛	—	はがね	—	はがね	—	はがね
	3 観察	3	剛	—	—	サナダ	—	愛媛裸1号	—
	4	4	やゝ剛	—	ミュキ	アサマ	ドリル	—	—
	5a	5	中	—	—	カシマ	カシマ	ユウナギ	カシマ
	5b	6	やゝ柔	—	ショウキ	—	関取埼1号	—	カワサイゴク
		7	柔	—	—	—	—	ミナミ	—
		8	極柔	—	—	—	—	—	—
		9	9						
2. 稈の細太 ** (I-2-2) Culm diameter	1 成熟期の稈の太さ	1							
	2 稈の最も太い個所の太さ	2	極細	—	—	—	—	—	—
	3 観察	3	細	—	ハヤチネ	—	ドリル	ナンプウ	カワサイゴク
	4	4	やゝ細	—	—	リクゼン	—	タマモ	ダイセン
	5a	5	中	—	ミュキ	ミノリ	カシマ	キカイ	カシマ
	5b	6	やゝ太	—	はがね	サナダ	—	赤神力	—
		7	太	—	—	—	はがね	穴喰在来	—
		8	極太	—	—	—	—	—	—
		9	9						
3. 株の開閉 ** (I-1-2) Culm angle	1 穂揃期～成熟期に茎が扇型に開く程度	1							
	2 茎が外方に扇開したのを閉とし直立したのを閉とする	2	極閉	—	—	—	—	—	—
	3 観察	3	閉	—	—	—	カシマ	ハシリ	カシマ
	4	4	やゝ閉	—	リクゼン	—	—	—	カワサイゴク
	5a	5	中	—	—	アサマ	ハルナ	ユウナギ	—
	5b	6	やゝ開	—	—	ミノリ	—	—	—
		7	開	—	ショウキ	ミュキ	—	ベニ	—
		8	極開	—	—	—	—	—	—
		9	9						

7. m ² 当り穂数	1	m ² 当りの穂数
	2	
Spike number	3	算出
per m ²	4	本
	5a	1
	5b	1
8. 有効穂数	1	遅れ穂, 被害穂を除いた穂数
	2	
Effective	3	測定
spike number	4	本
	5a	1
	5b	1
9. m ² 当り有効穂数	1	m ² 当りの有効穂数
	2	
Effective	3	算出
spike number	4	本
per m ²	5a	1
	5b	1

C. 【収穫期調査】

(31)

10. 有効穂数歩合 Effective spike percentage	1 有効穂数の割合 2 有効穂数/全穂数×100 3 算出 4 % 5a 1 5b 0.1
11. 遅れ穂数 Late - appeared spike number	1 遅れて出た穂の数 2 成熟が5日以上遅れ、普通の刈取りでは屑粒しか得られず、稈長が最長稈の50%以下の穂の数 3 測定 4 本 5a 1 5b 1
12. m ² 当り遅れ穂数 Late - appeared spike number per m ²	1 m ² 当りの遅れ穂数 2 3 算出 4 本 5a 1 5b 1

C. 【収穫期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地

(32)

13. 被害穂数 Damaged spike number	1	被害によって穎花の大部分（80%以上）が不稔または稔実不良（屑粒）となった穂の数								
	2									
	3	測定								
	4	本								
	5a	1								
	5b	1								
14. m ² 当り被害穂数 Damaged spike number per m ²	1	m ² 当りの被害穂数								
	2									
	3	算出								
	4	本								
	5a	1								
	5b	1								
15. 穂の抽出度 ** (I-4-4) Spike exertion	1	成熟期の止葉の葉鞘先端から穂首節	1							
		までの長さ	2	極短	—	—	—	—	—	
		稈長を測定した基について測定	3	短	—	—	ナトリ	ドリル	穴喰在来	—
		測定	4	やゝ短	—	ドリル	サナダ	—	—	—
		cm	5	中	—	ミュキ	—	関取埼1号	ユウナギ	—
	5a	1	6	やゝ長	—	—	アサマ	—	—	—
	5b	0.1	7	長	—	細麦2号	ミノリ	—	ミナミ	カワサイゴク
			8	極長	—	—	—	—	—	—
			9							

C. 【収穫期調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (33)

16. 稈長 ** (I-2-1) Culm length	1	稈の長さ	1							
	2	①立毛の場合は地際から穂首節まで、 抜取りの場合は根際から穂首節までの長さを測定	2	極短	—	—	—	ドリル	—	—
	3		短	—	ハヤミ	カシマ	カシマ	ナンブウ	カシマ	
	4		やゝ短	—	リクゼン	リクゼン	—	キカイ	カワミズキ	
	5		中	—	ミユキ	—	関取埼1号	サヌキ	—	
	6	②2か所以上、合計20株以上について、各株の最長稈を測定し、平均する	6	やゝ長	—	ミノリ	アサマ	—	シラタマ	ダイセン
	7		長	—	—	ミノリ	万力	赤神力	—	
	8		極長	—	—	—	—	—	—	
	3	測定	4	cm						
5a	1	5b	1							
9										
17. 平均稈長 Mean culm length	1	1株内の主稈および各分げつの稈長の平均								
	2									
	3	測定								
	4	cm								
	5a	1								
	5b	1								
18. 節間長 Internode length	1	伸長節間の長さ								
	2	伸長節間とは節間長0.5 cm以上をいう								
		穂首と止葉の間を第1節間として以下下位におよぶ								
	3	測定								
	4	cm								
	5a	0.1								
5b	0.1									

19. 地中茎長 Subcronal internode length	1	地中茎の長さ
	2	種子から地表面までの長さを測定
	3	測定
	4	cm
	5a	0.1
	5b	0.1

20. 総根長 Total root length	1	1次根の根長の総和
	2	
	3	測定
	4	cm
	5a	0.1
	5b	0.1

21. 根長 Root length	1	最長根長
	2	
	3	測定
	4	cm
	5a	0.1
	5b	0.1

22. 根数	1	種子根と冠根の総数
	2	
Number of nodal	3	測定
root and seminal	4	本
root	5a	1
	5b	0.1

23. 根色	1	根の色
	2	健全な場合は白・赤で中間の場合は赤褐，不健全な場合の色は黒褐・黒である
Root color	3	観察
	4	
	5a	
	5b	

D. 【収量関係調査】

D. 【収量関係調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (36)

1. 収量性 (II-9) Yielding ability	1	収量の多少	1							
	2		2	極少	—	—	—	—	—	
	3	測定, 観察	3	少	—	ショウキ	—	—	ハシリ	—
	4		4	やゝ少	—	—	—	—	—	—
	5a		5	中	—	べんけい	リクゼン	関取埼1号	キカイ	—
	5b		6	やゝ多	—	—	—	カシマ	—	カワサイゴク
			7	多	—	ミユキ	ミノリ	ナトリ	ユウナギ	カワミズキ
			8	極多	—	—	—	—	—	—
			9							
2. 1穂重 One spike weight	1	1穂の重さ								
	2	穂首節から切り取った穂の重量, 十分に風乾したものについて測定する 2か所以上, 合計20株以上の穂について測定する								
	3	測定								
	4	g								
	5a	0.1								
	5b	0.1								
3. 1穂粒重 Grain weight per spike	1	1穂の粒の重さ								
	2	1穂重を測定した株について調査する, または子実重÷穂数								
	3	測定・算出								
	4	g								
	5a	0.01								
5b	0.01									

D. 【収量関係調査】

(37)

4. 穂重歩合	1	全重に対する穂重の割合
	2	1株穂重を1株全重にて除す
Spike weight ratio		穂重を測定する株について調査する
		1株当り穂重 / 1株当り全重 × 100
	3	算出
	4	%
	5a	1
	5b	1
5. 1株穂重	1	1株の全穂の重さ (遅れ穂を除く)
	2	穂重を測定する株について調査する
Spike weight per plant		標本数は、D-2 1穂重 の測定に準ずる
	3	測定
	4	g
	5a	0.1
	5b	0.1
6. 平均1穂重	1	1穂の平均の重さ
	2	穂重の合計 / 穂重を測定した穂数の合計
Mean spike weight	3	算出
	4	g
	5a	0.1
	5b	0.1

7. 1株粒重 Grain weight per plant	1 株別に脱粒調製したものの粒重 2 穂重を測定する株について調査する 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1
8. 地上部生体重 Fresh top weight	1 根を切り取った茎葉のなまの重量 2 水を切ってしおれない間にすみやかに測定する。調査個体数は作物体の大きさ、試験の目的によって決定し、調査成績に付記する 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1
9. 乾物重 Dry weight content	1 材料の無水換算の重さ 2 材料をそのまま又は手早く秤量瓶に入れ、容器ともに重量を測り、容器の重さを差し引いて生体重とする。次に100～102℃の乾燥器中に入れ重量の変化がなくなるまで乾燥と測定を繰り返す 重量測定はデシケーター中で室温になるまで一定時間冷却した後、容器ともに重量を測り、容器の重量を差し引いて乾物重を出す $\text{含水率} = (\text{生体重} - \text{乾物重}) / \text{生体重} \times 100$ 調査個体数は地上部生体重に準ずる 3 測定 4 mg, % 5a 1 5b 1

10. 地上部風乾重 Air-dried top weight	1	地上部の風乾物重
	2	戸外で充分日乾陰干したものについて測定する 調査個体数は地上部生体重に準ずる
	3	測定
	4	g
	5a	0.1
	5b	0.1

11. 乾物重歩合 Dry weight ratio	1	生体重に対する乾物重の割合
	2	$\text{乾物重} / \text{生体重} \times 100$
	3	算出
	4	%
	5a	0.1
	5b	0.1

12. 風乾重歩合 Air-dried weight ratio	1	生体重に対する風乾重の割合
	2	$\text{風乾重} / \text{生体重} \times 100$
	3	算出
	4	%
	5a	1
	5b	0.1

D. 【収量関係調査】

(40)

13. 稈基重 Culm base weight	1 稈基部の重量 2 伸長節間 0.5cm以上の節間の下位節より上位10cmの長さの稈重, 葉身, 葉鞘は含まない 充分日乾した材料について測る 調査個体数は, 試験目的によって決定し調査成績に附記する 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1
14. わら重 Straw weight	1 わら (稈+葉+葉鞘) の重量 2 ①全重の脱穀後のわらの重量 ②全重-稈実粒重 3 測定・算出 4 g 5a 1 5b 1
15. m ² 当りわら重 Straw weight per m ²	1 わら重をm ² 当りに換算したもの 2 3 算出 4 g 5a 1 5b 1

D. 【収量関係調査】

(41)

16. 根重	1	根の風乾重
	2	調査個体数は、試験目的によって決定し調査成績に附記する
Root weight	3	測定
	4	g
	5a	0.1
	5b	0.1
17. 有効茎歩合	1	最高茎数に対する穂数の割合
	2	分けつ終期に生育中庸な4か所、合計面積が1 m ² 以上の茎数を測定しておき、成熟期にその箇所 の有効穂数/最高茎数×100
Rate of effective tillers	3	測定・算出
	4	%
	5a	1
	5b	1
18. 1穂小花着生穂軸節数	1	小花を着生する穂軸節の1穂当り数
	2	
	3	測定
Number of rachis node	4	個
	5a	1
	5b	1

D. 【収量関係調査】

(42)

19. 小花数 Floret number	1 有効穂についての小花数（不稔小花も含む） 2 小花とは肉眼的に内穎，外穎の完備したものをいう 穂重を測定する20個体以上の有効穂について測定 3 測定 4 個 5a 1 5b 0.1
20. 1穂当り小花数 Number of florets per spike	1 1穂に着生する小花の数 2 全小花数／有効穂数 3 算出 4 個 5a 5b
21. m ² 当り小花数 Floret number per m ²	1 m ² 当りの小花数 2 3 算出 4 個 5a 1 5b 0.1

22. 1穂粒数 Grain number per spike	1 1穂の粒数 2 ①穂重を測定した穂について測定 ②子実重÷穂数÷(千粒重÷1000) 3 測定・算出 4 粒 5a 1 5b 0.1
23. 稔実粒数 Grain number	1 稔実粒の数 2 稔実粒とは成熟期に上麦及び屑麦となるものをいう 小花数を測定した穂の稔実粒数を測定 1穂当たりまたは㎡当りで示す 3 測定・算出 4 粒 5a 1 5b 0.1
24. 稔実歩合 Rate of fertile flores	1 小花数に対する稔実粒数の割合 2 稔実粒数/小花数×100 3 算出 4 % 5a 1 5b 0.1

25. 整粒歩合 Plump - grain percentage	1 子実重に対する整粒重の割合 2 大粒大麦（二条大麦）では 2.2mm, その他小粒大麦では 2.0mm以上を整粒という 200gを供試し, 縦目振とう篩を用いて5分間ふるい分けし, 2.0mm または2.2mm 以上のふるい上に残ったものの重量の供試重量に対する割合 3 測定・算出 4 % 5a 1 5b 0.1
26. 全重 Total weight	1 収穫期における地上部風乾重 2 刈取面積は圃場の均一度, 試験の目的によって決定し, 調査成績に附記する 含水率は12.5%とする 3 測定 4 g 5a 1 5b 1
27. a 当り全重 Total weight per are	1 a 当りの全重 2 3 算出 4 kg 5a 0.1 5b 0.1

D. 【収量関係調査】

(45)

<p>28. 子実重 Grain weight</p>	<p>1 稔実粒から唐箕によって屑麦を除いた子実の重量 2 刈取面積は圃場の均一度，試験の目的によって決定し調査成績に附記する 含水率は全重と同じ，唐箕の回転数に注意する 3 測定 4 g 5a 1 5b 1</p>
<p>29. 屑麦重 Shriveled grain weight</p>	<p>1 唐箕選の2番口以下に出た粒の重量をいう 2 唐箕の回転数に注意する 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1</p>
<p>30. a 当り子実重 Grain weight per are</p>	<p>1 a 当りの子実重 2 3 算出 4 kg 5a 0.1 5b 0.1</p>

D. 【収量関係調査】

31. a 当り屑麦重 Shriveled grain weight per are	1	a 当りの屑麦重							
	2								
	3	算出							
	4	kg							
	5a	0.1							
	5b	0.1							
32. 1 ℓ 重 ** (I-8-2) Test weight	1	子実の1 ℓ 重量	1						
	2	1 ℓ 重測定器で3回測定した平均	2	極小	—	—	—	—	—
	3	測定	3	小	—	—	—	—	—
	4	g	4	やゝ小	—	ショウキ	—	ナトリ	ユウナギ
	5a	1	5	中	—	—	ミノリ	カシマ	キカイ
	5b	1	6	やゝ大	—	べんけい	サナダ	—	ハシリ
			7	大	—	—	—	—	—
			8	極大	—	—	—	—	—
			9						
33. 千粒重 ** (I-8-1) 1000-grain weight	1	子実の1000粒の重量	1						
	2	20g の試料について5回以上測定	2	極小	—	—	—	—	—
		する	3	小	—	—	—	—	クロシオ
	3	測定	4	やゝ小	—	ショウキ	ナトリ	ナトリ	一早生
	4	g	5	中	—	—	リクゼン	カシマ	ユウナギ
	5a	0.1	6	やゝ大	—	ミユキ	ミノリ	—	シラタマ
	5b	0.1	7	大	—	—	—	ニューゴール	佐賀大粒
			8	極大	—	—	—	—	—
			9						ダイセン

D. 【収量関係調査】

(47)

34. 整粒千粒重 1000- plump grain weight	1 整粒の1000粒の重量 2 20gの試料について5回以上測定する 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1
35. 屑麦千粒重 1000- shriveled grain weight	1 屑麦の1000粒の重量 2 屑麦重÷屑麦粒数×1000 3 測定・算出 4 g 5a 0.1 5b 0.1
36. 千粒重増加 状況 Increase of 1000- grain weight	1 千粒重の増加状況 2 穂重増加状況調査を行った乾燥穂を脱穀し全粒の1000粒の重量を測定する。20g 宛5回測定する 但し、初期は15gでよい 1000粒重を20gずつ5回測定した各々の試料について、粒の生育過程が判明するように粒の充実程度（例えば完全粒、不完全粒、着色粒等）を区分して各々の重量歩合を算出しておく（出穂期後10日より成熟期まで5日毎に測定するのを原則とする） 3 測定 4 g 5a 0.1 5b 0.1

37. 収穫指数	1	全重に対する子実重の割合
	2	子実重÷全重×100
Harvest index	3	算出
	4	
	5a	1
	5b	0.1

E. 【品質關係調查】

<p>1. 粒の黒目の有無・ 多少</p> <p>Amount of black point grain</p>	<p>1 粒, 胚あるいは胚乳の黒い斑点の有無と多少</p> <p>2 極多, 多, 中, 少, 極少, 無に区分する</p> <p>3 測定・観察</p> <p>4 %</p> <p>5a 1</p> <p>5b 1</p>
<p>2. 穀皮の厚さ * (I-7-4)</p> <p>Fineness of husk</p>	<p>1 穀皮の厚さ</p> <p>2 ちりめんじわ多:薄 " 少:厚</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>
<p>3. 剥皮の程度</p> <p>Degree of skinning</p>	<p>1 粒の皮むけの有無と多少</p> <p>2</p> <p>3 観察</p> <p>4</p> <p>5a</p> <p>5b</p>

E. 【品質関係調査】

番号 階級区分 寒 地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖 地 (50)

4. 穀皮歩合 Husk content	1	子実の乾燥重量に対する穀皮の割合								
	2	上表50粒を精量 (S) し, 5%NH ₄ OH, 10ccで80℃, 1時間処理し, 穀皮を剥して 105℃で 3時間乾燥し, 穀皮重量 (K) を測定する別に水分含量 (W) を測定 穀皮歩合 = { K × 1.0833 / S (1 - W / 100) } × 100								
	3	測定								
	4	%								
	5a	0.1								
	5b	0.1								
5. 粒の品質 Grain quality	1	粒の外観上の品質								
	2	粒の充実度及び色沢により鑑定する								
	3	観察								
	4									
	5a 5b									
6. 原麦粒の見かけの品質 ** (I-9-1) Grain quality	1	精原麦粒の見かけの品質	1	上の上	—	—	—	—	—	
	2	粒の充実, 粒揃い, 形状, 色沢により総合判定	2	上の中	—	—	ミノリ	—	サヌキ	成城17号
	3		上の下	—	—	ミノリ	アサマ	カシマ	ユウナギ	ダイセン
	3	観察	4	中の上	—	—	サナダ	—	キカイ	カワサイゴク
	4		5	中の中	—	—	ショウキ	リクゼン	ナトリ	ベニ
	5a		6	中の下	—	—	—	—	シラヌイ	—
	5b		7	下の上	—	—	—	—	ハシリ	—
			8	下の中	—	—	—	—	—	—
			9	下の下	—	—	—	—	—	—

7. 原麦全窒素含量 Nitrogen content of grain	1	精原麦粒に含まれる全窒素の含量								
	2	ケルダール法で測定する								
	3	測定								
	4	%								
	5a	0.01								
	5b	0.01								
8. 原麦粗蛋白質含量 Protein content of grain	1	精原麦粒に含まれる粗蛋白質の含量								
	2	全窒素含量×6.25								
	3	測定								
	4	%								
	5a	0.1								
	5b	0.1								
9. 原麦白度 * (I-9-2) Whiteness of grain	1	精原麦の白度	1							
	2	精原麦とは 1.8 mm (六条裸麦), 2.0 mm (六条皮麦), 2.2 mm (二条 皮麦) の縦目篩にかけたもの	2	極低	—	—	—	—	—	—
			3	低	—	—	—	—	ハシリ	—
			4	やゝ低	—	—	—	—	—	—
	3	測定	5	中	—	—	—	—	キカイ	—
	4	%	6	やゝ高	—	—	—	—	—	—
	5a	0.1	7	高	—	—	—	—	サヌキ	—
	5b	0.1	8	極高	—	—	—	—	—	—
			9							

E. 【品質関係調査】

番号 階級区分 寒 地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖 地 (52)

10. 精麦歩留 * (II-10-2) Pearled grain yield	1	精原麦に対する精麦の重量比	1						
	2	試験用搗精機を用いる	2	極小	—	—	—	—	—
	3	測定	3	小	—	—	—	—	(はるな二条)
	4	%	4	やゝ小	—	ミュキ	べんけい	ムサシノ	ナンブウ (イシュクシラズ)
	5a	0.1	5	中	—	—	—	—	キカイ カワサイゴク
	5b	0.1	6	やゝ大	—	ミノリ	—	カシマ	ユウナギ
			7	大	—	—	ミノリ	ドリル	—
			8	極大	—	—	—	—	—
			9						
11. 精麦白度 * (II-10-3) Whiteness of pearled grain	1	精麦の白度	1						
	2	白度計により測定	2	極小	—	—	—	—	—
	3	測定・算出	3	小	—	—	—	—	ハシリ
	4		4	やゝ小	—	—	—	ムサシノ	ヒノデ
	5a		5	中	—	ミュキ	—	—	タマモ カワサイゴク
	5b		6	やゝ大	—	ミノリ	ミノリ	カシマ	キカイ ダイセン (イシュクシラズ)
			7	大	—	—	—	—	サヌキ (はるな二条)
			8	極大	—	—	—	—	—
			9						
12. 欠損粒歩合 Percent of broken pearled grain	1	精麦粒中の欠損粒の割合							
	2	9分あるいは11分搗精時における精麦粒10g中に含まれる欠損粒の重量パーセント							
	3	測定							
	4	%							
	5a	0.1							
	5b	0.1							

F. 【特 性 調 査】

4. 並渦性 ** (I-1-3) Uzu or normal type	1 芽鞘の長さ及び先端部の形 2 付3を参照 3 観察 4 5a 5b	2 並 8 渦
5. 葉の柔剛 Leaf hardness	1 葉の固さ 2 剛, 中, 柔 3 観察 4 5a 5b	3 柔 5 中 7 剛
6. 止葉の形 Flag leaf shape	1 止葉の形 2 穂孕期～結実初期に調査する 3 観察 4 5a 5b	

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (55)

7. 止葉の大小 Flag leaf size	1	止葉の大きさ	1	
	2	穂孕期～結実初期に調査する	2	極小
	3	観察	3	小
	4		4	やゝ小
	5a		5	中
	5b		6	やゝ大
			7	大
			8	極大
			9	
8. 葉耳の有無 Presence of auricle	1	葉耳の有無		
	2			
	3	観察	0	無
	4			
	5a			
	5b		1	有
9. 葉耳の色 Auricle color	1	葉耳の色		
	2	紅, 紫, 白に分ける		
	3	観察	0	白
	4			
	5a		5	紅
	5b		8	紫

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (56)

10. 葉舌の有無 Presence of ligule	1	葉舌の有無								
	2									
	3	観察	0	無						
	4									
	5a									
	5b		1	有						
11. 葉鞘のワックスの 多少 (1-3-3) Degree of leaf sheath waxiness	1	出穂期における上位第1葉鞘のろう質の多少	0	無	—	—	—	—	—	—
	2		1							
	3	観察	2	極少	—	細麦2号	—	—	—	カワサイゴク
	4		3	少	—	—	—	—	ツクバ	—
	5a		4	やゝ少	—	べんけい	—	—	—	—
	5b		5	中	—	ミュキ	ミノリ	カシマ	ユウナギ	—
			6	やゝ多	—	—	—	—	—	—
			7	多	—	—	—	—	タマモ	ダイセン
			8	極多	—	—	—	—	—	—
			9							
12. 葉鞘の毛の有無・ 多少 (1-3-4) Degee of leaf sheath pubescence	1	葉鞘の毛の有無とその多少	0	無	—	べんけい	はやた	サツキ	ユウナギ	カワサイゴク
	2		1							
	3	観察	2	極少	—	—	—	—	—	—
	4		3	少	—	—	—	—	—	—
	5a		4	やゝ少	—	—	—	—	—	—
	5b		5	中	—	ミュキ	ミノリ	関取埼1号	クロシオ	(ミノリムギ)
			6	やゝ多	—	—	—	—	—	—
			7	多	—	—	—	—	—	—
			8	極多	—	—	—	—	—	—
			9							

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (58)

16. 稈のワックスの 多少 (I-2-4) Degree of culm waxiness	1	出穂期における上位第1節間の茎 のろう質の多少	0	無	—	—	—	—	—	—
	2		1							
	3	観察	2	極少	—	—	—	—	—	カワサイゴク
	4		3	少	—	細麦	—	—	—	—
	5a		4	やゝ少	—	—	—	—	—	—
	5b		5	中	—	ミュキ	ミノリ	カシマ	ユウナギ	—
			6	やゝ多	—	—	—	—	—	—
			7	多	—	—	—	—	屋根稈	ダイセン
			8	極多	—	—	—	—	—	—
			9							
17. 芒の有無・多少 ** (I-5-1) Awnness	1	芒の有無とその多少	0	無	—	宮城 123号	—	坊主	坊主	(西海皮 2号)
	2		1							
	3	観察	2	極少	—	リクゼン	信濃 1号	—	—	—
	4		3	少	—	—	—	—	改良坊主	—
	5a		4	やゝ少	—	—	—	横綱	—	—
	5b		5	中	—	—	—	—	キカイ	—
			6	やゝ多	—	—	—	—	—	—
			7	多	—	ミュキ	ミノリ	カシマ	佐賀大粒	(カワサイゴク)
			8	極多						
			9							
18. 芒の色 Awn color	1	芒の色	0	白						
	2		1	淡黄						
	3	観察	2	黄						
	4		3	黄褐						
	5a		4	褐						
	5b		5	赤褐						
			6	赤紫						
			7	紫						
			8	濃紫						
			9	黒						

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (59)

19. 芒の粗滑 * (I-5-3) Smoothness of awn	1	芒の滑らかさ	1							
	2	芒刺の有無	2	極滑	—	—	—	—	—	
	3	観察	3	滑	—	Decatur	—	滑芒二角	露54号	
	4		4	やゝ滑	—	—	—	大正麦	—	
	5a		5	中	—	—	—	—	—	
	5b		6	やゝ粗	—	—	—	—	—	
			7	粗	—	ミュキ	ミノリ	カシマ	キカイ	カワサイゴク
			8	極粗	—	—	—	—	—	—
			9							
20. 芒長 (芒の長短) * (I-5-2) Awn length	1	芒の長さ	1							
	2	①最長芒の長さを10穂について測る	2	極短	—	—	信濃1号	—	—	—
		②標準品種に対する長短を観察, 判定	3	短	—	リクゼン	リクゼン	備前早生	改良坊主	—
	3	測定, 観察	4	やゝ短	—	—	—	—	—	—
	4	測定, 観察	5	中	—	—	サナダ	カシマ	キカイ	カシマ
	5a	0.1	6	やゝ長	—	—	—	—	—	—
	5b	0.1	7	長	—	ミュキ	ミノリ	大正麦	佐賀大粒	カワサイゴク
			8	極長	—	—	—	—	—	—
			9							
21. 芒型 * (I-5-4) Hooded awn type	1	三叉芒の長短								
	2	付4参照								
	3	観察	2	短三叉						
	4									
	5a		5	並三叉						
5b		8	長三叉							

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (61)

25. 穂型 * (I -4-1) Spike shape	1	穂の形							
	2	二条種・密穂型：矢羽根, 疎穂型：棍棒 付6を参照	2	棍棒					
	3	観察	5	中					
	4								
	5a 5b		8	矢羽根					
26. 小花（芒）の 開張度 Degree of spikelet (awn) openness	1	穂軸に対する小花（芒）の開張度							
	2	穂軸と小花（芒）との角度が小さいとき閉，大きいとき開，その中間を中とする							
	3	観察							
	4								
	5a 5b								
27. 脱芒性 * (II -4-3) Degree of awn falling	1	成熟期の脱芒の難易	1						
	2	皮麦のみ	2	極難	—	—	—	—	—
	3	観察	3	難	—	キノメ	—	—	—
	4		4	やゝ難	—	—	リクゼン	—	—
	5a		5	中	—	ミユキ	—	関取埼1号	—
	5b		6	やゝ易	—	—	—	—	—
			7	易	—	—	ミノリ	—	—
			8	極易	—	—	べんけい	—	—
			9						
								カワサイゴク ダイセン	

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (63)

31. 粒着の粗密 ** (I-4-3) Spikelet density	1	小穂の着生密度	1							
	2	穂軸節間数 (1列の着生小花数)	2	極疎	—	—	—	—	—	—
	3	を穂軸長 (cm) にて除したもの	3	疎	—	—	—	—	穴喰在来	—
	4	生育順調な穂10本につき調査する	4	やゝ疎	—	細麦	ミノリ	サツキ	愛媛稈1号	—
	5	あるいは観察による	5	中	—	ミュキ	—	—	ヒノデ	成城17号
	3	測定・観察	6	やゝ密	—	—	サナダ	ハルナ	キカイ	カワサイゴク
	4		7	密	—	—	—	関取埼1号	愛媛稈1号 (イシュクシラズ)	
	5a	0.1	8	極密	—	—	—	—	白珍子	—
	5b	0.1	9							
32. 粒の形 ** (I-7-1) Grain shape	1	原麦粒の形	1							
	2	粒長の粒幅に対する比率	2	極円	—	—	—	—	—	—
	3	測定・観察	3	円	—	—	—	ドリル	ハヤジロ	—
	4		4	やゝ円	—	ミュキ	カシマ	カシマ	タマモ	カシマ
	5a									(成城17号)
	5b		5	中	—	—	リクゼン	関取埼1号	ユウナギ	(ダイセン)
			6	やゝ長	—	南部穂長	ミノリ	ミノリ	香川稈1号	カワサイゴク
			7	長	—	—	—	—	一早生	—
		8	極長	—	—	—	—	—	—	
33. 粒の大小 ** (I-7-2) Grain size	1	原麦粒の大小の程度	1							
	2		2	極小	—	—	—	—	—	—
	3	測定・観察	3	小	—	—	ナトリ	—	クロシオ	—
	4		4	やゝ小	—	ドリル	リクゼン	ナトリ	一早生	カシマ
	5a		5	中	—	—	—	関取埼1号	ユウナギ	—
	5b		6	やゝ大	—	ミュキ	ミノリ	サツキ	赤神力	カワサイゴク
			7	大	—	—	—	ニューゴール	佐賀大粒	ダイセン
			8	極大	—	—	—	—	—	—
			9							

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒 地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖 地 (64)

34. 粒の色 *	(I-7-3)	Grain color	1 原麦粒の色	0 白	—	—	—	—	—	—
			2 裸麦のみ	1 淡黄	—	—	—	—	—	—
			3 観察	2 黄	—	—	—	—	シラタマ	—
			4	3 黄褐	—	—	—	—	キカイ	—
			5a	4 褐	—	—	—	—	ハシリ	—
			5b	5 赤褐	—	—	—	—	赤神力	—
			6 赤	—	—	—	—	—	—	—
			7 赤紫	—	—	—	—	—	—	—
			8 紫	—	—	—	—	—	スマレ糯	—
			9 濃紫	—	—	—	—	—	—	—
35. 粒質 *	(II-10-1)	Glassiness of grain	1 精原麦粒の硝子率の程度	1	—	—	—	—	—	
			2 硝子質とは硝子率70%以上, 粉状 質とは30%以下, その中間を中間 質とする	2	—	—	—	—	—	
			3 測定・観察	3 粉状質	—	—	ミノリ	—	サヌキ	(はるな二条)
			4	4	—	—	—	—	ユウナギ	—
			5a 1	5 中間質	—	—	—	カシマ	キカイ	カワミズキ
			5b 0.1	6	—	ミノリ	べんけい	ムサシノ	ハシリ	カワサイゴク
			7 硝子質	7	—	ミュキ	—	—	—	—
			8	8	—	—	—	—	—	—
9	9	—	—	—	—	—	—			
36. 脱粒性 **	(II-6)	Threshability	1 成熟期の脱粒の難易	1	—	—	—	—	—	
			2	2 極難	—	—	—	—	—	
			3 観察	3 難	—	—	—	—	キカイ	—
			4	4 やゝ難	—	—	—	—	—	カワサイゴク
			5a	5 中	—	ミュキ	ミノリ	カシマ	ハヤジロ	—
			5b	6 やゝ易	—	リクゼン	—	—	—	—
			7 易	7	—	—	—	—	—	—
			8 極易	8	—	—	—	—	—	—
9	9	—	—	—	—	—	—			

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒 地

寒冷地北部

寒冷地南部

温暖地東部

温暖地西部

暖 地

(65)

37. 粒の硬軟 Grain hardness	1	粒の固さの程度							
	2	搗精時間, または硬度計による							
	3	測定・観察	3	軟					
	4								
	5a		5	中					
	5b								
			7	硬					
38. 耐倒伏性 ** (II-7) Lodging resistance	1	倒伏に対する強さ	1						
	2	倒伏の時期と程度によって総合的に判定する	2	極強	—	—	—	—	—
	3	観察	3	強	—	—	アサマ	ドリル	キカイ
	4		4	やゝ強	—	はがね	ミノリ	—	—
	5a		5	中	—	—	—	カシマ	ユウナギ
	5b		6	やゝ弱	—	—	みすず大麦	—	—
			7	弱	—	ショウキ	コウゲン	関取埼1号	ミナミ
			8	極弱	—	—	—	—	—
			9						
39. 耐寒性 * (II-8-1) Cold tolerance	1	寒さに対する強さ	1						
	2	越冬株率と被害程度による	2	極強	—	—	べんけい	—	—
	3	観察	3	強	—	ミユキ	ミノリ	—	—
	4		4	やゝ強	—	—	アサマ	—	—
	5a		5	中	—	ミノリ	サナダ	—	—
	5b		6	やゝ弱	—	—	—	—	—
			7	弱	—	—	—	—	—
			8	極弱	—	—	水晶関取305	—	—
			9			ハヤチネ	—	—	—

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (66)

40. 耐雪性 *	(II-8-2)	1	雪に対する強さ	1						
		2	融雪後の被害程度による	2	極強	—	—	べんけい	—	—
		3	観察	3	強	—	ミュキ	ミノリ	—	—
		4		4	やゝ強	—	—	—	—	—
		5a		5	中	—	—	—	—	—
		5b		6	やゝ弱	—	ミノリ	アサマ	—	—
		7	弱	7	弱	—	—	水晶関取305	—	—
		8	極弱	8	極弱	—	ハヤチネ	—	—	—
		9		9						
41. 耐湿性	(II-8-3)	1	湿害に対する強さ	1						
		2	生育時期を記述する	2	極強	—	—	—	—	—
		3	観察	3	強	—	—	ミノリ	—	サヌキ
		4		4	やゝ強	—	—	—	—	—
		5a		5	中	—	ミュキ	—	—	ユウナギ カワサイゴク
		5b		6	やゝ弱	—	ショウキ	—	—	— ダイセン
		7	弱	7	弱	—	—	—	—	キカイ カシマ
		8	極弱	8	極弱	—	—	—	—	—
		9		9						
42. 耐凍上性 *	(II-8-4)	1	凍上害に耐える程度	1						
		2		2	極強	—	—	—	倍取	—
		3	観察	3	強	—	—	ミノリ	—	ツクバ
		4		4	やゝ強	—	ショウキ	—	—	—
		5a		5	中	—	ミュキ	—	—	—
		5b		6	やゝ弱	—	—	—	—	—
		7	弱	7	弱	—	—	ナトリ	カシマ	ユウナギ
		8	極弱	8	極弱	—	—	—	—	—
		9		9						

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地

寒冷地北部

寒冷地南部

温暖地東部

温暖地西部

暖地

(67)

43. 縞萎縮病抵抗性* (II-12-1) Yellow mosaic resistance	1	縞萎縮病に対する抵抗性	1							
	2	病徴及び出穂期における穂揃いの 良否により判定	2	極強	—	—	—	—	—	—
	3	観察	3	強	—	—	—	—	ナンブウ	(イシュクシラズ)
	4		4	やゝ強	—	—	—	カシマ	シラタマ	—
	5a		5	中	—	ミュキ	ミノリ	ムサシノ	ユウナギ	—
	5b		6	やゝ弱	—	—	—	関取埼1号	愛媛稈1号	カワサイゴク
			7	弱	—	ニューゴール	—	—	キカイ	ダイセン
			8	極弱	—	—	—	—	—	—
			9							
44. 麦類萎縮病抵抗性 Green mosaic resistance	1	麦類萎縮病に対する抵抗性	1							
	2		2	極強						
	3	観察	3	強						
	4		4	やゝ強						
	5a		5	中						
	5b		6	やゝ弱						
			7	弱						
			8	極弱						
			9							
45. 赤かび病抵抗性* (II-12-2) Scab resistance	1	赤かび病に対する抵抗性	1							
	2	糊熟～成熟期の発病程度により判定	2	極強	—	—	—	—	—	—
	3	観察	3	強	—	—	—	—	—	(成城17号)
	4		4	やゝ強	—	—	—	—	穴喰在来	カワサイゴク
	5a		5	中	—	—	—	—	ユウナギ	(イシュクシラズ)
	5b		6	やゝ弱	—	—	—	—	愛媛稈1号	—
			7	弱	—	—	—	関取埼1号	—	カシマ
			8	極弱	—	—	—	—	—	—
			9							

F. 【特性調査】

番号 階級区分 寒地 寒冷地北部 寒冷地南部 温暖地東部 温暖地西部 暖地 (68)

46. うどんこ病抵抗性 ** (II-12-3) Powdery mildew resistance	1	うどんこ病に対する抵抗性	1							
	2	病斑密度により判定	2	極強	—	—	—	—	—	
	3	観察	3	強	—	—	ムサシノ	キカイ	—	
	4		4	やゝ強	—	ミユキ	ミノリ	—	シラタマ	カシマ
	5a		5	中	—	べんけい	サナダ	カシマ	赤神力	カワミズキ
	5b		6	やゝ弱	—	—	アサマ	—	ヒノデ	カワサイゴク
			7	弱	—	ショウキ	—	ナトリ	ナンブウ	(ダイセンゴールド)
			8	極弱	—	—	—	—	—	—
			9							
47. 小さび病抵抗性 (II-12-4) Rust resistance	1	小さび病に対する抵抗性	1							
	2	登熟期の病斑密度により判定	2	極強	—	—	—	—	—	
	3	観察	3	強	—	—	—	—	—	
	4		4	やゝ強	—	リクゼン	—	ハヤミ	—	—
	5a		5	中	—	ユキワリ	—	カシマ	—	—
	5b		6	やゝ弱	—	—	—	関取埼1号	—	—
			7	弱	—	ミノリ	—	—	—	—
			8	極弱	—	—	—	—	—	—
			9							
48. 雲形病抵抗性 (II-12-5) Leaf blotch resistance	1	雲形病に対する抵抗性	1							
	2	穂前期前後の病斑密度により判定	2	極強	—	—	—	—	—	
	3	観察	3	強	—	クモガタシラズ	—	アズマムギ	—	
	4		4	やゝ強	—	—	—	—	—	
	5a		5	中	—	ミユキ	—	—	—	
	5b		6	やゝ弱	—	—	サナダ	—	—	
			7	弱	—	—	—	関取埼1号	—	
			8	極弱	—	—	—	—	—	
			9							

49. 株腐病抵抗性	1	株腐病に対する抵抗性
	2	
Foot rot	3	観察
resistance	4	
	5a	
	5b	

50. 斑葉病抵抗性	1	斑葉病に対する抵抗性
	2	
Stripe disease	3	観察
resistance	4	
	5a	
	5b	

51. 虫害抵抗性	1	害虫に対する抵抗性
	2	害虫名を記述すること
(II-13)	3	観察
	4	
Resistane	5a	
to insect	5b	
damage		

付 1 秋播性程度検定標準品種

I . . . 早 生 細 稈

II a . . . 滋賀穂揃 1 号

II b . . . 畿内 3 5 号

III . . . 培取 1 0 号

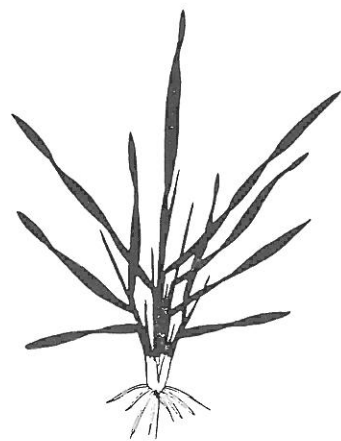
IV . . . 畿内 3 4 号

V . . . 関取埼 1 号

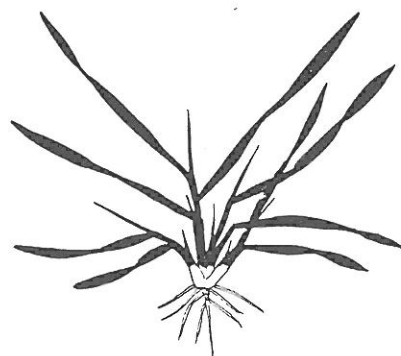
VI . . . 長 岡

VII . . . 岩手大麦 1 号

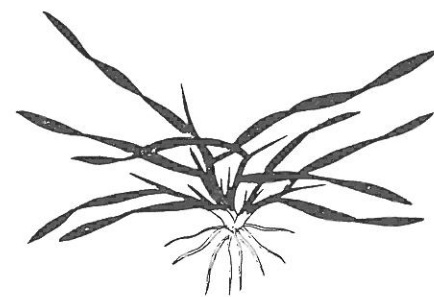
付 2 叢 性



直 立 型

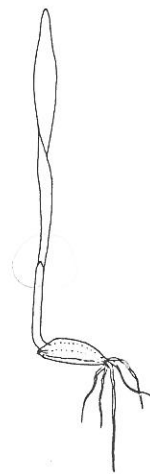


中 間 型

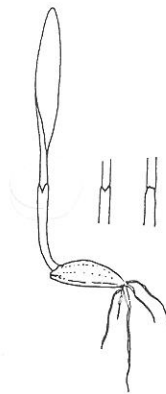


匍 匐 型

付 3 並 渦 性



並

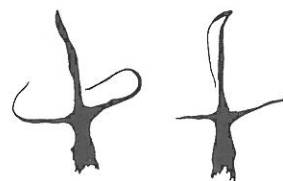


渦

付 4 芒 型

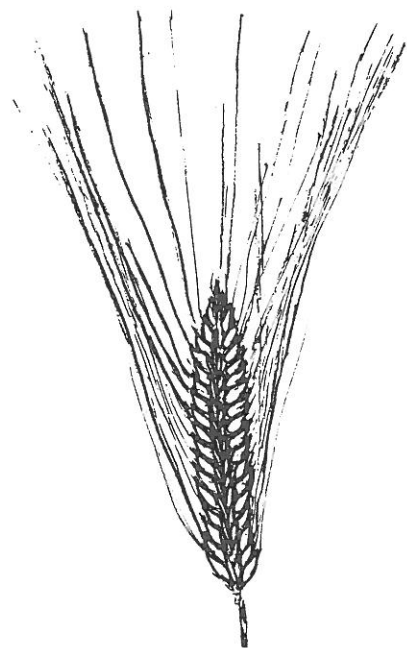


短 三 又

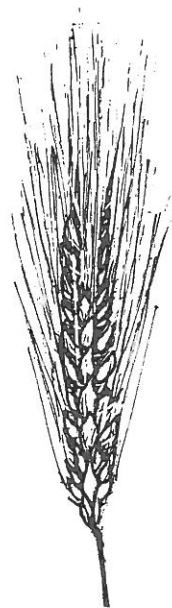


長 三 又

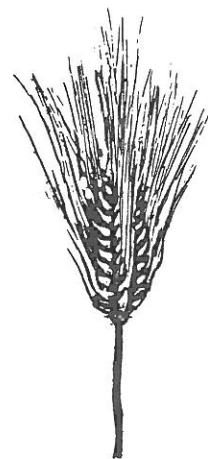
性 条 5 付



二 条



粗 六 条

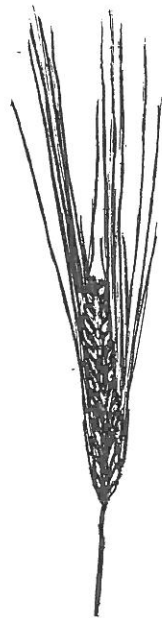


六 条

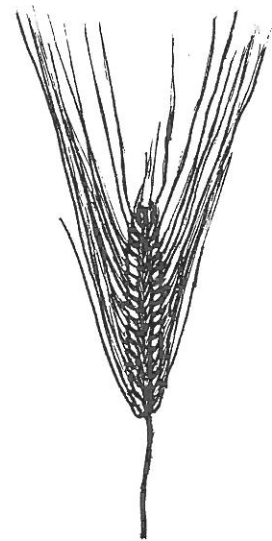
付 6 穂 型



棍 棒



中



矢 羽 根

さ く い ん

あ 行	稈基重	40	さ 行	生育日数	23	地上部生体重	38	
	稈長	33		生育良否	15	地上部風乾重	39	
赤かび病抵抗性	乾物重	38	最高分げつ期	9	成熟期	22	地中茎長	34
a 当り屑麦重	乾物重歩合	39	酸性の害	27	生葉数	10	虫害	24
a 当り子実重				精麦白度	52	虫害抵抗性	69	
a 当り全重	起生期	17	子実重	45	精麦歩留	52		
			湿害	25	整粒千粒重	47	凍上害	26
1 匁重	茎立期	17	縞萎縮病抵抗性	67	整粒歩合	44	凍霜害	26
	茎立性	18	収穫指数	48	雪害	25	倒伏の程度	23
うどんこ病抵抗性	草丈	7	収量性	36	節間伸長開始期	17	止葉の形	54
	屑麦重	45	出芽期	4	節間長	33	止葉の大小	55
顔色 (稈色)	屑麦千粒重	47	出芽後の生育の良否	6	千粒重	46		
越冬株歩合	雲形病抵抗性	68	出芽数	5	千粒重増加状況	47		
			出芽整否	6	全重	44	な 行	
黄熟期	茎数	7	出芽揃	4				
遅れ穂数	結実日数	22	出芽日数	4	総根長	34	並渦性	54
	欠損粒歩合	52	出芽始	3	叢性	53		
	減数分裂期	18	出芽率	5			乳熟期	21
か 行	原麦全窒素含量	51	出芽良否	6	た 行			
	原麦粗蛋白質含量	51	出穂まで日数	19			稔実歩合	43
開花期	原麦白度	51	出穂期	19			稔実粒数	43
株の開閉	原麦粒のみかけの品質	50	出穂促進日数	20	耐寒性	65		
株腐病抵抗性			出穂遅延日数	20	耐湿性	66		
枯葉数	小さび病抵抗性	68	出穂始	19	耐雪性	66	は 行	
皮裸性	穀皮の厚さ	49	出葉期	11	耐凍上性	66		
稈の剛柔	穀皮歩合	50	出葉転換期	11	耐倒伏性	65	葉の黄化期	11
稈の細太	根数	35	小花 (芒) の開張度	61	脱稈性	62	葉の柔剛	54
稈のワックスの多少	根重	41	小花数	42	脱芒性	61	葉の寿命	12
寒害	根色	35	条性	60	脱粒性	64	剥皮の程度	49
旱害	根長	34					発芽始	1

発芽期	1	分けつ数	8	ま 行	幼穂形成期	16	
発芽整否	2	平均稈長	33		幼穂長	16	
発芽勢	3	平均1穂重	37	播性の程度	53	幼穂形成始期	16
発芽揃	1	m ² 当り遅れ穂数	31		葉舌の有無	56	
発芽日数	2	m ² 当り基数	7	麦類萎縮病抵抗性	67	葉面積	14
発芽率	3	m ² 当り出芽数	5	無効分けつ期間	10	葉面積指数	15
発芽良否	2	m ² 当り小花数	42		葉齢	13	
春播・秋播の別	53	m ² 当り被害穂数	32	糯, 粳の別	62	葉齢指数	13
斑葉病抵抗性	69	m ² 当り穂数	30				
晩霜害	26	m ² 当り有効穂数	30	や 行	ら 行		
		m ² 当りわら重	40				
被害発生状況	23						
被害穂数	32	穂の下垂度	57	葯の色	57	粒の色	64
1株穂重	37	穂の抽出度	32			粒の形	63
1株粒重	38	穂型	61	有効茎歩合	41	粒の黒目の有無・多少	49
1穂当り小花数	42	穂重歩合	37	有効分けつ期間	9	粒の硬軟	65
1穂重	36	穂数	29	有効分けつ決定期	9	粒の大小	63
1穂小花着生軸節数	41	穂前期	20	有効穂数	30	粒の品質	50
1穂粒重	36	穂前日数	21	有効穂数歩合	31	粒質	64
1穂粒数	43	穂長	29			粒着の粗密	63
病害	24	穂発芽性	29	葉色	12		
		穂孕期	18	葉鞘の毛の有無・多少	56		
風害	27	芒の色	58	葉鞘のワックスの多少	56	わ 行	
風乾重歩合	39	芒の有無・多少	58	葉鞘長	14		
分けつ開始期	8	芒の粗滑	59	葉耳の色	55	ワックスの多少	60
分けつ最盛期	8	芒型	59	葉耳の有無	55	わら重	40
分けつ終期	10	芒長(芒の長短)	59	葉身の下垂度	57		
				葉身長	13		
				葉身巾	14		

あ　と　が　き

昭和55年度の麦類試験研究総括検討会議において、新しい情勢に応じた調査基準を策定することが決定され、関係者によって作業を進めてきた。その結果小麦については、すでに取まとめを終え、今春“小麦調査基準”として印刷、配布したが、今回、大麦（皮麦・稈麦及び醸造用大麦）についても取まとめを終えたので印刷に付すこととした。

策定を決定してから今日までかなりの時が経過しているが、それぞれの項目について、定義、調査方法等簡単には決しきれない場合も多くあり、関係者間で往復検討を重ねてきたためである。まだ、不備な点も多いが、完全を期すということになれば、さらに時間を要し、策定の本来の目的である“利用”という点からはますます遠ざかることになる。ここに“第1版”としてあえて刊行することとした次第である。

不十分な点は今後機会あるごとに修正をはかり、より充実したものにしていきたいので、忌憚のない御意見を頂ければ幸いである。

なお、“小麦調査基準”とはできるだけ整合性を保つように心掛けたが、作物の性格、検討時期のちがい等もあって必ずしも一致していない面も生じている。両者を通じての御意見を頂ければより幸いである。

1986年9月

農業研究センター作物第二部長

増田 澄夫

皮麦・稗麦（非醸造用二条大麦）調査基準策定関係者

策定責任者	農業研究センター	作物第二部	部長
事務局	農業研究センター	作物第二部	麦栽培研究室
参画研究室	東北農業試験場	栽培第二部	作物第1研究室
	〃		作物第2研究室
	〃		育種工学研究室（作物第6研究室）
	〃		作物第5研究室
	北陸農業試験場	作物部	作物第5研究室
	中国農業試験場	作物部	作物第5研究室
	四国農業試験場	栽培部	作物第1研究室
	九州農業試験場	作物第一部	作物第4研究室
	〃		作物第5研究室
	〃	農地利用部	作物導入研究室
	栃木県農業試験場	二条大麦育種指定試験地	
		ビール麦醸造用品質改善指定試験地	
	長野県農事試験場	麦育種指定試験地	
	農業研究センター	作物第二部	大麦育種研究室
	〃		小麦育種研究室
	〃		麦育種法研究室
	〃		麦導入保存研究室
	〃		麦生理生態研究室

以上のほか、関東東海地域の各県農業試験場からは、資料提供等の御協力を頂いた。

（ ）内は昭和61年4月以前

